平成27年度京都市中央卸売市場第一市場運営協議会 会議録

日 時 平成28年1月8日（金）午後1時30分から午後3時00分まで

場 所 京都市中央卸売市場第一市場 関連10号棟大会議室

出席委員 18名

京都市中央卸売市場協会	会 長	池本 周三（会長職務代理者）
京都青果小売商組合連合会	会 長	石塚 清三
京都水産物小売団体連合会	会 長	岡本 勲
大京魚類株式会社労働組合	委 員 長	小倉 達朗
京都市中央卸売市場関連事業者連合会		小野 博子
京都野菜卸売協同組合	理 事 長	久世 明
京都大学大学院農学研究科	准 教 授	工藤 春代
京都市中央卸売市場関連事業者連合会	会 長	澤田 利之
全国農業協同組合連合会京都府本部	本 部 長	宅間 敏廣
京都塩干魚卸協同組合	理 事 長	辻 泰三
京都中央市場青果卸売協同組合	理 事 長	中川 恵司
市民公募委員		中島 醇子
京都市地域女性連合会	常任委員	中野 比佐子
京都大学大学院農学研究科	教 授	新山 陽子（会長）
京都中央総合食品協同組合	理 事 長	野村 憲司
京都塩干魚卸協同組合		橋本 玲枝
京果労働組合	執行委員長	長谷川 知義
株式会社大水京都支社	支 社 長	濱崎 徹

欠席委員 7名

市民公募委員		石倉 紘子
新日本婦人の会京都府本部	副 会 長	魚山 栄子
京都青果合同株式会社	代表取締役社長	内田 隆（会長職務代理者）
市民公募委員		浦 詩織
大京魚類株式会社	代表取締役社長	大石 光二
京都中央総合食品協同組合		大谷 啓子
住みよい京都をつくる婦人の会	副 会 長	佐川 早苗

議題 1 次期「京都市中央市場マスタープラン（仮称）」について

議題 2 部会の設置について

【議題 1】 次期「京都市中央市場マスタープラン（仮称）」について

次期「京都市中央市場マスタープラン（仮称）」について、事務局から説明

- 京都市中央市場マスタープランの内容について、業界がどのように対応していくかが大事である。今後も業界の中で引き続き議論し、積み重ねていく必要がある。整備計画では34年に水産棟が完成する。今から、6年間でなにができるかが重要であり、マスタープランに記載している内容について、開設者と話し合いながら、進めていきたい。

（事務局）

- 今回の整備期間中に、マスタープランに記載されている内容を含め、多くの課題を解決していく必要がある。開設者である市だけでなく、事業者の方々が主体的に取組み、改善していくことが重要である。
- 仮設期間中の大型トラックの動線が機能しなければ、物流を維持できないため、その点をしっかり整備に盛り込んで欲しい。
- 現在、豊洲の新施設においても、物流の動線をどのように確保するかが議論されている。

（事務局）

- 物流の動線は非常に大事なものであると認識している。特に、工事期間中において工事車両が錯綜することとなる。コンサルにも相談しながら、物流に影響がでないよう、検討している。また、豊洲の新施設ができると大都市の卸売市場においては、京都市が最後の大規模整備となるため、整備期間中に他市場にお客様が離れることのないよう、力をいれていく必要があると考えている。
- 整備期間中にお客様が逃げていかないように、事業戦略をどのように考えていくかが重要である。整備期間中ではあるが、京都市中央市場ならではのメリットをいかにだせるかを考えていく必要がある。
- 卸売市場は一般市民にとって、非常に敷居が高いというイメージがある。一般市民にとって、足の運びやすい、魅力のある卸売市場になって欲しい。また、今回の整備で市場がよいものになることをもっと伝えて欲しい。

(事務局)

- 卸売市場は、市場と名前が付いているが、小売をする場所ではなく、小売店や量販店、料理屋等に対して商売を行う場所である。新施設になったから、小売が出来るというものではない。ただし、卸売市場というものが、市民生活を食生活の部分から支えているという重要な役割を担っていることを市民の方々に知っていただきたいと考えている。新施設では一般市民向けの見学ルートを設置し、魚食等の普及イベント等、市民の方々へ卸売市場を知っていただくよう取り組んでいく。
- 多くの市民の方々は卸売市場の役割を御存知ないと思う。卸売市場が小売店等に売る等の役割を知ってもらうことも大切であるが、卸売市場を経由すると、市民の方々にとってどのように良くなるのかを伝えていく必要がある。市場外流通よりも、市場を経由した方が価値を持つことをアピールできるようにしていかなければならない。生産者から卸売業者、仲卸業者、小売店を通じて、最終的に地域市民の手元のところまで提供されるということを視野に入れて、卸売市場が必要であることを市民の方々に伝え、支持していただく必要がある。市だけでなく、卸・仲卸・小売店も一体となって、そうなるよう取り組んでいただきたい。
- 卸売市場を知っていただくことは重要である。市民の皆様にも市場を知っていただく機会として、他市場では行われていない京都市独自の取組みとして、月に1回、仲卸店舗が小売を行う「食彩市」を開催している。
- 一部の仲卸店舗において、12月の「食彩市」で年度末にセールをするという宣伝をしている。魚食拡大を目的に「食彩市」を行うことに賛成したが、一部の仲卸店舗が「食彩市」以外の日に小売を行うことは問題だ。小売店舗の減少につながってしまう。

(事務局)

- 卸売市場には卸売市場の役割、小売店には小売店の役割がある。生鮮食料品等が卸売市場から小売店に流れていき、消費者の方へ届けられるという構図について、それぞれの事業者が協力してそれぞれの役割を果たすことが重要である。そして、連携しながら、市場外流通に対抗し、市場の取扱数量を増加させていく必要がある。
- 商店街の振興と、市場の振興を繋げていくことを考えるべきではないか。例えば、近隣の七条商店街を活用することを検討していくことを考えるべきである。

(事務局)

- 今回のマスタープランの冊子10ページに、市場施設整備にあわせて、七条通りの賑わいの支援を検討することを盛り込んでいる。

- 小売業者の皆様と連携しながら、卸売市場の役割を周知していきたい。また、一部の小売を行っている仲卸業者に対しては、指導してまいりたい。
- 一般市民を呼び、市民に卸売市場に馴染んでもらうために「食彩市」を行っているが、御存知のとおりモトラが交錯しており、市場は危険である。小売業者の立場からすると、一般市民の方が卸売市場では買いにくいと提供いただけるくらいの方が、安全の観点ではよいと思う。そのため、青果は「食彩市」を開催していない。
- 仲卸業者は小売をしたいと思っている訳ではない。「食彩市」はあくまでも魚食普及のために行っている。
- 一般消費者に卸売市場で扱っている生鮮食料品がよい品質であることを理解してもらい、どうすれば卸売市場を経由した生鮮食料品を小売店で購入してもらえるのかを考える必要があるのではないか。
- 卸売市場が閉鎖的であるというイメージを変え、またどのような役割を担っているかPRする必要があることから「食彩市」を行っており、小売業者を脅かすために行っているものではない。施設整備に関しては、青果棟は平成40年度に完成する予定となっているため、整備の影響が10年以上続くことになる。工事期間中の動線等により取扱数量が減少することを懸念している。
- 市を中心として、産地への働きかけも行っていく必要があると考える。

(事務局)

- 御意見いただいた点は大きな課題であると認識しており、マスタープランの中に、産地と連携して、荷物を確保していくことを盛り込んでいる。今後、具体的な取組については議論をして、詰めて行きたい。
- 場内事業者、とくに仲卸業者の体質強化をしていく必要がある。どれだけの荷物を卸売市場にもってきたとしても、それを取り扱う場内事業者がいなくなるとは卸売市場の機能を維持できない。
- 第二市場においては、卸売会社の経営体質強化に対して、非常に厳しいチェックを行っている。そのチェックをクリアしなければ、次の整備が進められないようにしている。経営体質強化については、具体的な評価方法を作り、評価を行っていくことが必要であると考えます。

(事務局)

- 市としては、経営体質強化について、具体的な取組をはじめている。12月から、業務改善命令を出し、該当事業者には改善計画を立てていただく。この計画が実行できなければ、営業許可自体を考えさせていただくという取組みに着手したところである。今回の施設整備を機会に仲卸業者の統合・再編にも取組んでいく。

- 京都市中央市場には、近くの産地から出荷されるものを専門的に取扱う「近郷」という卸売場があり、生産者にとって産地競争に巻き込まれない仕組みは非常に有益である。国内の生産者育成のため、輸入品ではなく、国産物、特に京都のブランドという安心・安全なものを提供していくことは非常に重要である。消費者が安心・安全なものを要望し、小売店が卸売市場に注文いただくようなかたちになれば良いと思う。今回の整備で一般市民である消費者に開放的な市場になるようにしていただければ、国産物の品質理解につながると思う。

- 近郷野菜については、需要があっても供給できない状況となっている。野菜のブランド化等によってお金を取れる野菜を提供できるようになれば、取扱業者の増加により、供給量が増えるだろう。

(事務局)

- 卸売市場には川上（生産者）と川下（消費者）を繋げる架け橋となって、情報を相互に伝達する役割があると考えている。今回のマスタープランにその点も盛り込んでおり、今後、具体的に取組んでいく。

- 関係者と連携をとって、農家を育成し、強い「京野菜」の産地を作っていく必要がある。

- 整備計画の中において、量販店対策についてはどのように考えているか。

(事務局)

- トラックバース等、物理的なものは整えていく計画としている。一方で、販促活動等については、具体的にどのような取組みをしていくかを議論・検討していきたいと考えている。

【議題2】 部会の設置について】

運営協議会の部会の設置について、事務局から説明

- 水産棟の基本設計を行う業者の選定方法について、市としては、透明性をもった業者選定を行うため、運営協議会に部会を設置し、その部会で受託する設計業者を決めていきたいという意向である。
この部会の設置について、委員の皆様から御意見等がないようであれば、承認することとするがいかがか。

【異議なし】

- 特に御意見がないようなので、部会の設置を承認し、京都市中央卸売市場業務条例施行規則118条の2第4項の規定により、部会の構成員のうち、すでに運営協議会の委員である3名については、この場で指名をさせていただく。
なお、部会長については、第一回の部会において指名することとする。